

二九三五番

あらたまの年としの緒をなが長く
何時いつまでか
我が恋こひ
居をらむ 命いのち知らずて

二九三六番

今は我いまあは 死しなむよ我が背せ
恋こひすれば 一夜ひとよ一日ひとひ
も 安やすけくもなし

二九三七番

白しろたへの袖そで折をり返かへし 恋こふればか
妹いもが姿すがたの
夢いめにし見みゆる

二九三八番

人言ひとことを 繁しげみ言こと痛いたみ 我わが背せ子を 目めには見みれど
も 逢あふよしもなし